

CO・OP

京都の生協

2019/August/No. 99
京都府生活協同組合連合会



地域で学び、地域に貢献し、地域を変える。
—— 福知山の地で学び育つ若者たちとともに ——

TalkTalk トークトーク

福知山公立大学学長 井口和起さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛利博

対談

TalkTalk トークとーく



地域で学び、地域に貢献し、地域を変える。

——福知山の地で学び育つ若者たちとともに——

福知山公立大学 学長

井口和起さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授)

上掛利博

福知山公立大学は、私立の前身校から福知山市が設置者を引き継いで2016年に開学しました。この大学には、自分のまちを元気にしたいという夢を抱いて地域に出

かけ、地域の人びととともに学びを深めていく学生と、彼らを温かく見守りその成長を促す職員、教育研究を通して地域に貢献しようとする教員が集っています。

府北部の中心的なまち——福知山

上掛 先生は福知山のご出身ですので、まず始めに、ま

の都を結ぶ重要な水運に恵まれ、京から周防国に至る山陰街道も通り、近代に入ると大阪と舞鶴を結ぶ阪鶴鉄道(現JR福知山線)と京都・下関

府北部の中心的なまちと言えるでしょう。古くから人や物や情報の往来が盛んなまちでしたから、一般的に「商業のまち」と言われますが、平成の大合併で新たに加わった大江町・三和町・夜久野町は農業の盛んな地域です。藍染と

井口 由良川沿いの丘陵地に開けた地域で、原始古代から人が住んでいた形跡があり、本学の敷地内の武者ヶ谷遺跡からはきわめて早期の縄文土器が発見されました。都市化したのは、明智光秀が福知山城を築城した戦国末期以降です。

JR西日本が福知山支社を置いていますし、さらに宮津までは第三セクターの京都丹後鉄道の宮福線が走っています。

来年のNHKの大河ドラマの主人公が明智光秀に決まり、ここ福知山でも話題沸騰です。また、戦前・戦後を通して外

由良川という、日本海と京

いわば交通の要衝で、京都

また、戦前・戦後を通して外

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

地域で学び、地域に貢献し、地域を変える。

——福知山の地で学び育つ若者たちとともに—— 2

くらしの安全/防災の取組

適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネット

ワーク(KCCN)が内閣総理大臣表彰を受賞 7

適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西(KC's) 総会・シンポジウム 7

第50回京都消費者大会—「ともに築こう豊かな消費

社会〜誰ひとり取り残さない2019〜」開催 7

京都府災害ボランティアセンター総会・全体研修会

開催 7

京都府生協連 第66回通常総会 開催 8

2019年国際協同組合デー 第30回京都集會 10

総会だより①

●京と地球(アース)の共生府民会議 総会 11

●京都地球温暖化防止府民会議 年次総会 11

●京都食育ネットワーク 総会 11

ピースアクション京都2019 12

ヒバクシャと話すKYOTO原爆展 13

総会だより②

●京都労働者福祉協議会 第63回定期総会 13

●KGPN 第16回通常総会 13

●(一社)京都食品産業協会 定時総会 13

京都府生協連 第30回

「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」 14

おもな行事のお知らせ 14



東京都府生活協同組合連合会 会長理事
（京都市立大学公共政策学部教授）
上掛利博

交官・国会議員・内閣総理大臣として活躍した芦田均や、日本画家で文化勲章を受けた佐藤太清を輩出したまちでもあります。

上掛 1974年には長田野工業団地ができています。

井口 それによって工業都市の様相も持ち始めましたが、残念ながら地元企業との結びつきは少なく、団地内の工場生産に必要な部品等のほとんどは京阪神地域から届きません。地元企業が特にIT関係で長田野の受発注に対応できる能力を備えないと、地域経済の振興にはなかなか結びつかないわけです。

地場の企業のなかには、製造業で大きく成長して長田野に入っている例もありますが、多くはありません。福知山は、綾部と並んで、明治から昭和前期にかけては繊維産業が盛んで、郡是や鐘紡などの工場もありましたから、それらの工場用の製造機器を生産する企業も、小規模ながらありました。

上掛 地域経済により循環をもたらすような地域の産業が生まれると良いですね。

ところで、地方での人口減少の問題が注目されて久しいのですが、福知山はいかがでしょう？

井口 10年ほど前は8万人以上で、現在は7万8千人と、やはり少しずつ減っています。ただ、減り方は府北部の他の地域に比べて緩やかですし、不思議なことに、多くの地方都市が人口を減らした高度経済成長期においても、福知山市は人口規模を維持しました。これはやはり、交通の要衝だったからだと思います。

それに、福知山市内の職場や学校に兵庫県域から通う人たちもあり、昼間人口は多くなっています。そうした背景もあって、あまり人口を減らさずに推移してきたのではないのでしょうか。

なぜ「市立大学」ではなく「公立大学」なのか

上掛 大学の設置者は福知山市ですが、大学名を「福知山市立大学」ではなく「福知山公立大学」とされているのはなぜでしょうか？

井口 本学は「地域密着型大学」を標榜していますが、この場合、私たちがイメージしている「地域」は、いわゆる丹波・丹後地域である府北部

の5市2町と、兵庫県北部の5市2町の但馬地域です。

兵庫県北部も含むのは、丹波市、豊岡市、養父市、朝来市、丹波篠山市と境を接している、人の往来も多いからですが、本学の学生の出身県で最も多いのも兵庫県です。われわれは、この丹波・丹後・但馬の10市4町を「北近

畿」と呼び、この地域に密着し、この地域の人びとにも学び、その学びをこの地域に還元できるようにしようと考えました。そういう決意と

「北近畿の各市町も大学の共同の設置者になってほしい」との願いをこめて、「福知山公立大学」と名付けたのです。ちなみに、この北近畿地域

10市4町の人口規模は60万人弱です。

上掛 そうすると、北近畿の圏域では、大学と地域の協働の取り組みはどのようにおこなわれているのですか？

井口 昨年度は、京都府はもちろんのこと、兵庫県の丹波市・朝来市と包括連携協定を結び、但馬信用金庫、京都北都信用金庫をはじめJRや京都丹後鉄道など交通機関などの民間企業とも連携協定を結びました。



福知山公立大学 学長
井口和起さん





北近畿地域連携センター

また、豊岡市には兵庫県立大学の大学院地域資源マネジメント研究科（豊岡ジオ・コウトリキャンパス）があり、本学に隣接して京都工芸繊維大学の福知山キャンパスもあるので、本学を含めた3大学と京都北都信用金庫・但馬信用金庫・ウイラートレイン・JR西日本福知山支社が連名で呼びかけて、2017年に「北近畿地域連携会議」を立ち上げました。

これは、いわば大学と民間企業などの緩やかな連合体で、相互に情報を共有して、そのなかから地域の課題を見いだして共同研究をおこない、そ

の成果を発表するとともに、シンクタンク機能をも果たすことをめざしています。

現在、域内の約50の民間企業の参加を得ていて、事務局長は本学の富野副学長が務めています。

上掛 連絡会議には、行政も参加しているのですか？

井口 各市町とは包括連携協定を結んでいますので、あえてメンバーとしての参加はお

願いしていません。周辺からサポートしていただければありがたいと思っています。

上掛 共同研究の成果は？

井口 高齢ドライバーによる交通事故が目立つようになり、

運転免許の返納を求める声が大きくなっていますが、この地域は公共交通が不便ですから、車を運転できないと買い物にも行けないし、農家の元気なお年寄りには軽トラックを

乗りこなしておられるから、それを取り上げたら農作業ができなくなります。ですから、この地域に適した折り合いのつけ方について提言をまとめ、発表しました。

若者の地域への定着促進や交流人口を増やす方策も研究テーマですが、まだ実態調査の段階で、提言に至っていませんので、研究を続けてい

ます。

地域まるごと大学化 地域協働型教育研究

上掛 学生教育においては、フィールドワークを重視した「地域協働型教育研究」を前面に掲げられていますね。

井口 すべての学生は、入学時から教員と一緒に週1回、フィールドワークに出ます。

その対象は、旧市街地の商店街、三和・大江・夜久野といった農村地域、医療機関など、市内のあらゆる地域や産業分野です。

1・2年次はフィールドで人びとと広く接しつつ、地域課題を調査・分析するために必要な方法を身につけます。

3年次になると、自分の関心に基づいて研究テーマを絞り、ゼミに所属して研究を深め、その成果を4年次に卒業論文という形にします。この授業は卒業まで必修科目です。

この「地域協働型教育研究」においては、大学教員による教室での授業だけが学習

の場ではありません。地域の人びとは学生にとって教師でもあります。若者とともに学生でもあります。つまり、地域が

まるごと大学になるわけです。一昨年度は、こうした地域経営学が学問として成り立つ

のかどうかを問い、「地域経営学とは何か―福知山公立大学の挑戦」を紀要別冊第一号にまとめました。教育的成果についても、若手の先生方を中心に昨年度「福知山公立大学における地域協働型教育の「これまで」と「これから」」を紀要別冊第二号にまとめ総括をしています。

残念ながら、到達点はまだまだで、さまざまなことに懸命に取り組んできましたが、学生がどのような力をどれだけ身につけたかを正確に測れているわけではありません。

そこは厳しく検討していく必要があると考えています。ただ、たとえば毎年出しているこの「地域協働型実践教

育」の年次報告書において、1回生は、最初は自分の感想めいたことを書くのみでしたが、次第に自分たちの到達度と課題についての自覚を書くようになりました。これは小さな前進です。

それから、大学祭も、昨年は学生たちが「まちのなかでやりたい」と言いだしまして、JR福知山駅前で開催しました。そこにはふだんフィールドワークでお世話になっていた地域の方がたも来てくださいましたので、これからも市民と大学の協働の大学祭として育てていけたらと考えています。



この大学の何が若者を惹きつけるのか

上掛 フィールドワークに出かけた学生さんの反応のはいかがですか？

井口 地域実践をやりたくて入学した学生は、「週1回では足りない。もっと行きたい」と言い、自主的なプロジェクトを立ち上げるなどしています。偏差値からの判断だけで本学を選んだ学生の場合、フィールドワークに興味を持てなかったり、なかなか意欲的になれなかったりします。

そういう学生に、地域との協働で学ぶことへの動機づけをおこなうのはたいへん難しく、現場の先生方は日々、さまざまな工夫を重ねているところです。ただ、おもしろいことに、学生の出身県は北海道から沖縄まで全国にまたがっていますが、ほとんどは福知山市と同程度の人口規模のまち

から来ています。だから、学生に「とんでもない田舎に来たど、びつくりしたのではなにか」と尋ねると、「そんなことはない。私の出身のまちとあまり変わらない」と答えます。

つまり、本学には大都市指向の学生は少なく、「私たちの市や町（出身地）を元気にしたい。そのために地域に入って学びたい」という、きわめて積極的な学生が来てくれているわけで、自分たちの出身地の魅力や特徴に目を向

け直す学生たちも出てきています。それが私たち教員の大きな支えです。



け直す学生たちも出てきています。それが私たち教員の大きな支えです。

帰納法で情報学を学び、まちの防災に貢献する

上掛 今度、新たに情報学部情報学科の設置が発表されました。その意図はどのようなところにあるのでしょうか。

井口 ひとは、この地域の高校生の関心の方向は地域経営学という社会科学（一部に人文科学も含みますが）だけでなく、自然科学にも向いているので、そうした知的欲求に応えるために理系の学部を設けたい、ということですね。

そのために、いま最も必要とされる学問分野は何だろうかと考えると、やはり情報化社会ですから情報学をきちんと学んだ人が求められているのではないかと考えました。もうひとつは、情報学部は、地域経営学部と同じ理念に基

上掛 私のゼミにも京都府北部の峰山出身の学生がいますが、「京都市内の人口の多さはくたびれる。北部出身の友だちが話も合うし、将来暮らすには峰山のほうがいい」と言っています。最近の若者は必ずしも大都市指向とは限ら

ないようにも思えます。
井口 地域実践に熱意のある学生は、卒業後の進路の第一志望に出身地の自治体職員を挙げることが多いので、なかなか福知山市に残ってくれません。これは大学を設置した自治体としてはジレンマです。

づいて、帰納法的なカリキュラムにします。すなわち、1年次に福知山市などの地方自治体や地域の企業でフィールドワークをおこない、そこで求められる地域課題と情報学的手法からの改善方策への接近などを考える体験をする。そうすると、IT技術や情報機器をより活用するためには原理・理論が必要だと自覚できるようになり、情報学の学びへの動機づけができるだろうと考えたのです。

これを逆にして、いきなり数学などの原理から入ると、学生のモチベーションを高めたり維持したりするのが難しくなります。これまで例のない斬新なカリキュラム体系で、

現在設置認可の申請中です（7月18日現在）。

3つめは、防災・減災との関係です。福知山は、毎年のように起こる由良川の氾濫に悩まされてきましたから、災





まちかどで学ぶ「学長塾」

害に強く、持続可能なまちづくりには、情報学の立場から貢献したい。あるいは、高齢者や障がい者の方がたをひとりも取り残さず救出するための対策について、情報学の知見をもとに考えたい。具体的には、たとえば堤防のどこが決壊し、どの地域がどれぐらい氾濫しているか、通行止めの

箇所はどこか等々、時事刻々と変化する詳細な情報が住民に即座に伝わるシステム構築などの役割を担いたいと考えています。

また、野生鳥獣害も深刻な地域ですので、動物を感知するシステムの開発など、情報学の立場から関われることは多いと思います。

りする「ふくちやま市民交流プラザ」内にあるので、利用しやすい環境にあります。

上掛 若者の活字離れとかかわって、大学生協では卒業するまでの4年間に100冊本を読む「読書マラソン」の取り組みをしています。また、高齢者支援では、京都生協が、福知山市などを含む京都府下の自治体や社会福祉協議会と見守り協定を結び、買い物難民の多い中山間地域で生協の個配を通じて見守りをおこなったり、助け合いの活動や介護保険の福祉事業も展開したりしています。

上掛 大学の公開講座の中では、学長の名前を冠した「井口学長塾」が開かれていて、歴史を学ぶ意義から近現代の話まで、とても興味をそそられるテーマになっています。

井口 これは私も楽しみにしている試みです。「真に地域密着型をめざすなら、昔の寺子屋のように、つねに市民と一緒に学ぶ場をつくりたい。だから、開くなら、ぜひまちなかで」と思っていて、当初は既存の古本カフェを会場にしました。いまは、旧市街地の商店街の空き家をリフォームした、まちかどキャンパス「吹風舎」で開いています。

開講した当初の受講生は小中高の教員を定年退職された高齢者と現役の学校教員の方がたをはじめ、一般市民だけだったのですが、先日の講座に初めて本学の学生が来てくれまして、とても喜んでいてるところです。

上掛 いまの学生さんには、知らない人と話すことに苦手意識もあるようですが：

井口 地域の人びととコミュニケーションをとるためには、自分の思いを率直に伝えること以上に、年齢や考え方の異なる相手の話をしっかり聴く能力が必要ですが、最近の若い人たちはSNSを介してコ

ミュニケーションをとることが多いようです。その世界に頼りすぎると、対話を通じて地域社会の人びととつながる能力は低下せざるを得ないので、そこを克服することは大切な課題だと思います。

もうひとつ危惧しているのは活字離れです。本学では、地域に入ると同時に、座学でも必ず課題を出して、それに関連する文献を読むように促しています。学生たちは苦勞しているようです。

残念なことに、本学の図書館はまだ蔵書が少ないので、それを補うために学生には福知山市立図書館の利用を促しています。市立図書館は、28万冊もの蔵書があり、JR福知山駅前の、ふだん学生が市民との協働の企画でよく出入

このように生活協同組合は購買事業にとどまらない多彩な活動をしているのですが、井口学長からごらんになって、生協はどのように映っていますでしょうか？

井口 京都市内で暮らしていたときは、生協が平和の問題に取り組んでいる姿を目にしていました。北部地域で積極的に取り組んでおられるお年寄りの見守りをしている姿はまったく見えていません。せっかくな活動ですから、もっと可視化したほうがいいのではないのでしょうか。

大学生協については、私自身生協がある環境のなかで育ってきましたし、学生・教職員との福利厚生にも寄与すると思うので、本学でもできれば良いですね。

上掛 今日は地域と大学の関連についての興味深いお話を、ありがとうございました。



プロフィール 井口和起 (いぐち かずき)

福知山公立大学 学長

1940年京都府福知山市生まれ。京都大学大学院博士課程中退後、京都大学人文科学研究所・大阪外国語大学を経て、京都府立大学文学部勤務。同学長を退職後、京都府立総合資料館長、同顧問などを歴任。京都大学博士（文学）。現在は、福知山公立大学学長、京都府立京都学・歴史館顧問。専攻は日本近現代史。資料館在職中からアーカイブズ学に接近し、大規模災害時の被災文書の救済活動にも参加。現在、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会副会長。府大在職中の1981年以降、京都の平和のための戦争展運動に長年たずさわってきた。主著は『日露戦争の時代』・『日本帝国主義の形成と東アジア』など。



KCCN・野々山宏理事長

消費者庁では、消費者支援
功労者表彰制度を設けていま
す。2019年度、KCCN
が適格消費者団体としては初
となる内閣総理大臣表彰を受
けました。

5月27日(月)には、京都司
法書士会館で総会と講演会が
開催されました。KCCN・
野々山宏理事長が開会あいさ
つのなかで、受賞の報告、会
員をはじめ関係各諸機関のご
協力、ご支援に対するお礼と、
これからも力をあわせて公正
な社会をめざし頑張りましよ
うと話されました。

長野浩三理事・事務局長が
京都府知事からのお祝いメッ

適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク
(KCCN)が内閣総理大臣表彰を受賞



公正取引委員会・吉岡徹氏

セージを紹介したあと、石田
郁雄理事が議長をつとめ総会
議事にはいり、全議案が可決
されました。

総会後の記念講演では「か
しこい商品選択を身につけよ
う〜私たちが安くて良い商品
を賢めるワケ〜」と題して、
公正取引委員会事務総局近畿
中国四国事務所取引課・吉岡
徹氏より報告があり、公正取
引委員会の役割と最近の事例
についてくわしく報告があり
ました。

京都府生協連・高取淳専務
理事が副理事長をつとめてい
ます。

適格消費者団体・特定適格
消費者団体・NPO法人消
費者支援機構関西(KCS)
総会・シンポジウム

6月22日(土)、エルおおさ
か南館5階南ホールで開催。
約80人が参加し、提案された
全議案が可決されました。

シンポジウムでは「イソフ
ラボン事案の成果とそこから
学ぶ集団的消費者被害回復制
度の課題〜16000人への
返金を実現。あなたの評価
は?〜」をテーマに、被害回
復検討委員会・島川勝委員長
が報告。坂東俊矢常任理事が
コーディネーターになり、意
見交換がおこなわれました。

京都府生協連・高取淳専務
理事が理事をつとめています。

第50回京都消費者大会
「ともに築こう豊かな消費
社会〜誰ひとり取り残さな
く2019〜」開催

5月18日(土)、ウイングス
京都イベントホールにおいて
開催。主催はNPO法人コン

シューマーズ京都、京都府・
京都市。

阿南久氏(元消費者庁長官、
公益財団法人横浜市消費者協
会理事長、消費者市民社会を
つくる会代表)より、「SDG
sと消費者市民社会〜エシカ
ルな消費で誰もが豊かで安心
してくらせる社会をつくらう
〜」と題して基調講演があり
ました。誰ひとり取り残さな
い社会の実現にむけて、消費
者一人ひとりがネットワーク
(連帯・協働の場)に積極的
に参加していきましようと言
われました。140人の参加
がありました。

最後にドキュメンタリー映
画「ザ・トゥルー・コスト〜
ファストファッション真の代
償〜」が上映されました。



(公財)横浜市消費者協会理事長・阿南久氏

京都府災害ボランティアセ
ンター総会・全体研修会開催

6月8日(土)、京都府立京
都学・歴史館小ホールで開催
されました。提案されたすべ
ての議案について審議され、
承認されました。

全体研修会では「2018
年7月豪雨の際の京都府災害
ボランティアセンター活動に
ついて」、「倉敷市災害ボラン
ティアセンターの取組みにつ
いて」をテーマに、各委員よ
り報告があり、意見交換しま
した。

同センターは、2004年
に発生した台風23号による災
害の教訓を活かし、被災地で
円滑なボランティア活動をお
こない早期復旧に尽くすこと
を目的に、2005年に行政、
民間団体、社会福祉協議会等
による公・民協働、常設の災
害ボランティアセンター組織
として発足しました。

京都府生協連は正会員とし
て加盟しており、九鬼隆一事
務局長が副代表をつとめてい
ます。

京都府生協連 第66回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員21人を選任

6月11日(火)、午後1時30分からコープ・イン・京都で、「京都府生活協同組合連合会第66回通常総会」を開催しました。

今総会の代議員数は45人で、当日の出席は本人出席33人、書面出席12人でした。ご来賓をはじめ、82人の参加となりました。



京都労働者福祉協議会・廣岡和晃会長



京都府府民環境部・大谷学部長 (京都府・西脇隆俊知事代理)



開会あいさつをする上掛利博会長理事

上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府府民環境部・大谷学部長(京都府・西脇隆俊知事代理)、京都労働者福祉協議会・廣岡和晃会長から、ご祝辞をいただきました。

九鬼隆一事務局長が、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた84通の祝電・メッセージの一部を紹介しました。

提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。員外理事をふくむ18人の理事と3人の監事が選任されました。2019年度の役員体制は左ページのとおりです。



祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた (敬称略・順不同・6月11日現在)

衆議院議員	安藤 裕	衆議院議員	泉 ケンタ	衆議院議員	こくた恵二
衆議院議員	しげもと護	衆議院議員	竹内 譲	衆議院議員	本田太郎
衆議院議員	前原誠司	衆議院議員	山井和則	参議院議員	井上さとし
参議院議員	倉林明子	参議院議員	二之湯 智	参議院議員	福山哲郎
京都市長	門川大作	京都府議会議長	田中英之	京都府社会福祉協議会会長	位高光司
京都市社会福祉協議会会長	村井信夫	京都商工会議所会頭	立石義雄	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰宏
京都府森林組合連合会代表理事会長	青合幹夫	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔		

誰もが安心してくらせる地域・社会づくりをめざして

～新・京都の生協の課題と京都府生協連の役割～

京都の生協の5つの課題

- ① 生協の事業と活動の総合力を発揮し、生活の文化的・経済的向上をめざします
 - ② 組合員の願いを大切に、ライフスタイルの変化にこたえ、それぞれの生協の強みを発揮して、「私の生協」と実感できる事業やサービス、活動の実現をめざします。
 - ③ 消費者市民社会の主人公として、よりよい社会づくりに貢献します
 - ④ 食の安全や消費のあり方を意識し、自立した組合員の協同の力で消費者市民社会の実現をめざします。健康づくりや、福祉の充実とくらしの安心、地球環境保全や食糧問題、消費者問題、男女共同参画の推進、平和・核兵器廃絶、憲法を守り、民主主義の実現に努力します。
 - ⑤ 安心してくらせる地域経済・社会づくりをめざします
- ④ 協同と連帯の力で活動を推進します
それぞれが持つ個性と強みをいかし、さまざまな分野の生協同士が協同と連帯をすすめる、さらに協同組合間協同を推進することで、組合員の願いを実現し、協同組合の価値をひろげます。
- ⑤ 組合員参加をひろげ、安定した事業と経営を確立します
組合員参加をひろげ、協同の力でさまざまなニーズにこたえらるとともに、コンプライアンスと内部統制につとめ、安定した事業と経営の確立をめざします。

2019年度役員体制 6月11日現在(敬称略)

*印は新任

- 代表理事・会長理事 上 掛 利 博
(員外)
- 副会長理事 畑 忠 男
(京都生活協同組合理事長)
- 副会長理事 中 島 達 弥
(京大大学生協同組合専務理事)
- 代表理事・専務理事 高 取 淳
(員外)
- 常任理事 本 多 浩
(京都府庁生活協同組合専務理事)
- 常任理事 田 中 とみ子
(乙訓医療生活協同組合専務理事)
- *常任理事 中 森 一 朗
(生活協同組合連合会大学生協事業連合常務理事)
- 理 事 石 澤 春 彦
(京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事)
- *理 事 大 島 芳 和
(京都生活協同組合専務理事)
- 理 事 岡 田 照 雄
(京都市民共済生活協同組合専務理事)
- 理 事 川 村 幸 子
(京都生活協同組合副理事長)
- 理 事 酒 井 克 彦
(立命館生活協同組合専務理事)
- 理 事 坂 本 真 有 美
(生活協同組合コープ自然派京都理事長)
- 理 事 清 水 泰 治
(京都医療生活協同組合専務理事)
- *理 事 高 杉 綾 子
(生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ理事)
- 理 事 堂 本 吉 次
(やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
- 理 事 藤 井 博 史
(京都工芸繊維大学生協同組合常務理事)
- 理 事 山 本 克 彦
(全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
- 特定監事 長 誠 一 郎
(乙訓医療生活協同組合監事)
- *監 事 河 野 直
(京都生活協同組合常務理事)
- 監 事 林 章 司
(京都府府庁大生活協同組合専務理事)

(事務局)

- 事務局長 九 鬼 隆 一
- 事務局担当 川 端 浩 子
- 事務局担当 岡 本 朋 子

今回退任された役員のみなさん

6月11日現在(敬称略)

- 理事 上 総 紫 香 子
(生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ副理事長)
- 監事 石 井 聡
(京都生活協同組合常勤監事)



高取淳専務理事

当日は8人の代議員・オブザーバーから、会員生協の活動について、8件の発言がありました。

これらの発言をふまえ、高取淳専務理事が、「京都の生協があらゆる分野や場面で、くらしや地域に役立つことがわかりました。会員生協のみなさんや、地域・関係団体と連携して『安心してくらしの社会の実現』という目標に向かって邁進できると実感しました。これからも京都の生協が前進し続けられるよう、京都府生協連も役割を果たしていきたい」と、まとめをおこないました。

発言者と
テーマ



京都府庁生協
中村 知彦 代議員

「府庁生協の事業活動と課題」



京大大学生協
堀川 拓真 代議員

「京大生協のビジョンと健康企画」



京都高齢者生協
くらしコープ
水口 武夫 代議員

「1年の振り返りかえりと今年の目標」



京都市民共済生協
岡田 照雄 オブザーバー

「相次ぐ自然災害への対応」



乙訓医療生協
富家 禎子 代議員

「事務所からはなれた地域での医療生協組合員活動(長岡京支部)」



生協コープ自然派京都
今田 晴美 代議員

「食の安全と国産オーガニックを広げるために」



生協生活クラブ
京都エル・コープ
奥野 正登 代議員

「2018年度の活動を振り返って」



京都生協
林 美和 代議員

「エネルギー消費を広げるとりくみ」

京都府生協連の4つの役割

- ①学びと交流
会員生協の共同の場にかかわり、生協同士がお互いに学びあい、はげましあえる交流と共同の行動をつよめます。
- ②生協間の協同・連携
多様な生協間の協同と連携、職員や組合員の交流を推進し、あらたな取組みの創造をめざし、交流から、さらに提携できることを模索します。また全国の生協とつながり、共通する課題の取組みを推進します。
- ③行政・諸団体との連携
京都の生協を代表して、行政との連携、各界との意見交換の開催、各種協同組合や地域諸団体とのネットワークをひろげ、連携して組合員と消費者の願いを実現することをめざします。
- ④生協の姿を社会に発信し、理解をひろげる
京都の生協の事業や活動のさまざまな姿を社会(行政、報道機関、地域諸団体)に発信し、生協の視認性や認知度を高める活動を通して、生協の価値と存在意義への理解をひろめます。

2019年 国際協同組合デー 第30回 京都集会

「協同組合と地域の連携」をテーマに開催



JA京都中央会・中川泰宏会長が開会あいさつ

7月3日(水)、キャンパスプラザ京都で開催され、JA、JF、森林組合、生協から161人が参加しました。国際協同組合デーは毎年7月第1土曜日を全世界の協同組合員が心をひとつにして、協同組合の発展を願い、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されました。

京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会(構成/JA京都中央会・京都府森林組合連合会・JF京都府生活協同組合連合会)の主催で記念集會を実施しています。

司会はJA京都中央会・中川和弘参事が担当し、JA京都中央会・中川泰宏会長より開会あいさつがありました。

本田太郎衆議院議員と前原誠司衆議院議員、二之湯とし参議院議員からお祝いのメッセージをいただきました。



京都府農業協同組合中央会・中川和弘参事

「協同組合と地域の連携」地域内経済循環の構築」と題して、奈良女子大学生生活環境学部生活文化学科講師・青木美紗氏にご講演をいただきました。参加者からは「地域と協同組合の関わりや、協同組合が果たす役割の重要性がよくわかりました」「地域が主体的に動いた事例として、『かわかみらいふ』の事業内容はとても興味深く感じました」「地域経済の活性化の取組みがすばらしいと感じた」など多くの感想が寄せられました。

各協同組合からは「協同組合の担い手が語る」と題した活動報告がありました。

参加者からは「各協同組合の取組みについて、知らないことばかりだったので、おもしろかった」「生産者の取組みの実態を知ることができ、興味深かった」などの感想が寄せられました。

閉会にあたり、京都府森林組合連合会・青合幹夫代表理事会長が「協同組合でしかない地域との連携とあわせて、協同組合間の連携も、より一層強めていきましょう」と結びました。



京都府森林組合連合会・青合幹夫代表理事会長が開会あいさつ

総会だより①

京と地球（アース）の共生府民会議 総会

6月4日（火）、京都府庁福利厚生センター会議室において開催されました。

京都府府民環境部・高屋奈尾子副部長より開会のあいさつがありました。平成30年度事業実績および収支決算について、令和元年度事業計画（案）及び収支予算（案）等の、すべての議案が議決されました。事業計画では、環境フェスティバルの開催等、活動の活性化をめざしたいとの報告がありました。その後、構成団体による活動状況・取組事例についての報告がされました。当会議は、京都府生協連を含む48の団体で構成されています。

京都地球温暖化防止府民会議 年次総会

6月15日（金）、ウイングス京都において開催されました。平成30年度事業報告、決算、令和元年度事業計画、予算等、すべての議案が承認されました。令和元年度の方針では、パリ協定の発効を受けて、ビジョンをこれまでの「低炭素型のステキな京都」から「脱炭素型のステキな京都」の実現に変更し、より活動を強化することを目指します。また、京都議定書採択から20周年にあたるという契機を活かし、情報発信等を広く展開します。

総会前の関連セミナーは、「地域にエネルギーを取り戻す～再生可能エネルギー事業からはじまる地域の幸せ向上～」題して、E-konzalの榎原友樹さんから報告がありました。

京都食育ネットワーク 総会

6月30日（日）、キャンパスプラザ京都で開催されました。

代表の同志社大学政策学部・総合政策科学研究科・今里滋教授が開会のあいさつをおこない、規約の改正や役員の選任など、提案された全議案が承認されました。

総会のあと、料理家・食生活アドバイザー・河野真希さんから「手軽にバランスよく！一汁三菜からはじめる食育～無理なく続けられるコツと段取り術～」をテーマに、食育講演会が開催されました。

同ネットワークは、食育にかんする普及・啓発、情報の収集・提供、食育支援活動の登録・提供などの取組みをおこなっており、保健衛生、農林水産、教育・大学、商工、消費者団体、報道関係などの幅広い分野から、88の団体が会員登録しています。

京都府生協連から、九鬼隆一事務局長が幹事に就任しました。

《記念講演》

「協同組合と地域の連携」

～地域内経済循環の構築～

奈良女子大学生活環境学部

青木 美紗 先生



「防災レクニック」の実施による防災意識の向上の取り組み」

J A京都園部支店

長主 久美



「丹後とり貝」生産の20年の歩み～生産拡大・安定化、ブランド化に取り組んで」

舞鶴とり貝組合

川崎 洋平



「園部町森林組合の活動について」

園部町森林組合

宇敷 彩花



「京都生協食育サポーター活動～子ども料理教室カレールイスとサラダを作ろう～」

京都生協

井上 瑞穂
榎本 真弓



協同組合の担い手が語る

J A・J F・森林組合・生協から
活動報告がありました
(敬称略)

ピースアクション京都 2019

6月21日(金)、京都府生協連のよびかけで
生協組合員約80人が、ピースパレードに参加



京都高齢者生協くらしコープ・水口武夫理事長、京都生協・川村幸子副理事長、全国大学生協連関西西北陸ブロック京滋・奈良エリア学生事務局・吉村暢基さん、生協コープ自然派京都・柴垣千春専務理事、京都府生協連・上掛利博会会長理事が先頭をきって行進

たからものー未来をつくるの
80人が「みんなでないこうピ
ース&ピース今ある平和は
加もあり、組合員・役職員約
ほか、鳥取県の生協からの参
らしコープ・大学生協などの
で、京都生協・生協コープ自
然派京都・京都高齢者生協く
らしコープ・大学生協などの

した。
京都府生協連のよびかけ
で、京都生協・生協コープ自
然派京都・京都高齢者生協く
らしコープ・大学生協などの
ほか、鳥取県の生協からの参
加もあり、組合員・役職員約
80人が「みんなでないこうピ
ース&ピース今ある平和は
たからものー未来をつくるの



鳥取県の生協からも参加



京都生協役員のみなさん

はわたしたちー」をテーマに
「NONUKES 核兵器はい
らないー」のプラカードを掲
げ、街ゆく人びとに力づくよ
アピールしました。
多くの観光客の中を祇園
石段下から四条通り、河原町
通りをすすんで、京都市役所
まで行進しました。
全国の被爆者らが中心とな
ってすすめる「ヒバクシャ国
際署名」への協力を呼びかけ
るチラシや折り鶴を配りなが
らの行進となりました。
パレードの出発を前に、円
山公園内で出発集会が開かれ
ました。

総会だより②

京都労働者福祉協議会 第63回定期総会

5月23日(木)、ラポール京都(京都労働者総合会館)で開催されました。

京都労働者福祉協議会(京都労福協)は、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくらう!」をスローガンに掲げ、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。提案された「2018年度活動報告・会計報告および会計監査報告」「2019年度活動方針・予算」「役員補充」等の議案すべてが承認されました。京都府生協連では高取淳専務理事を理事に派出しています。

KGPN 第16回通常総会

6月27日(木)、コープ・イン・京都で開催されました。2018年度の事業報告と決算が審議・可決され、2019年度の事業計画と予算が報告されました。

総会のあと、(株)吉川商店(回収びんの洗浄、新びんの卸売り等)から「リユースびんの現状と課題」をテーマに学習会が開催されました。

KGPNは京都府・京都市・府内自治体・事業者・市民団体・個人が参加して「グリーン購入」の普及をとおしてより環境に配慮された社会になるように活動しているネットワークです。

京都府生協連では右近裕子生協活動推進専門委員を幹事として派出しています。

(一社) 京都食品産業協会 定時総会

6月25日(火)、京都プライトンホテルで開催されました。

提案された「平成30年度事業報告及び財務諸表承認の件」「平成30年度公益目的支出計画実施報告の件」等のすべての議案が承認されました。

総会後に龍谷大学農学部食品栄養学科・伏木亨教授による「美味しさの科学」と題した研修会がありました。

京都府生協連では、畑忠男副会長理事を理事として派出しています。



出発集会で集合写真

2019年原水爆禁止国民平和実行委員会へのメッセージ

2019年原水爆禁止国民平和実行委員会へのご参加のみならず、連日、ほんとうにご苦労さまです。京都の生活協同組合を代表して、心から連帯のごあいさつを申し上げます。

広島・長崎への原爆投下から74年。昨年末に国連総会本会議で各国に核兵器禁止条約への署名と批准を求める決議案を賛成多数で可決しましたが日本など41か国が反対し、明るい見通しが立たないまま現在を迎えています。

また、昨年4月に朝鮮半島をめぐる南北首脳会談、6月には米朝首脳会談が開催され、朝鮮半島の非核化や北東アジアの平和の共同体づくりの出発点となることが期待されていました。しかし、「朝鮮半島の完全な非核化」をどう具体化させるのかの協議はすすんでおらず、引き続き注視していく必要があります。

被爆者やその関係者のみなさんとともに設立した「ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会」の取り組みは大きな前進を見せています。5月には「ヒバクシャと

話すKYOTO原爆展」が開催され、多くの府民に被爆の実相をお知らせすることができました。被爆者の「核戦争起こすな、核兵器をなくせ」「ふたたび被爆者をつくらない」という切実な願いにしっかりと向き合い、核兵器廃絶の転機となる年にしていきましょう。

京都の生協は、被爆者やその関係者のみなさんとともに「ヒバクシャ国際署名」を大きくひろげ、戦争も核兵器もない平和な社会の実現に向けて、引き続き役割を發揮してまいります。

平和行進のとおりくみが、そのための力強い一歩となることを確認し、みなさまと一緒に、楽しく、そして声高らかに、平和と安全・安心のくらしの大切さをより多くの京都府民のみなさんによりかけていきたいと思ひます。

2019年6月21日

京都府生活協同組合連合会

会長理事

上掛 利博

ヒバクシャと話すKYOTO原爆展

5月17日(金)〜19日(日)、御池地下街ゼスト・寺町広場にて開催されました。3日間来場者は800人(主催者発表)、ヒバクシャ国際署名は173筆集まりました。

広島・長崎の原爆写真パネルや広島市の基町高校の生徒が描いた「原爆の絵」の展示、ヒバクシャと出会うカフェ(ヒバクシャを囲んで交流)、アニメ「つるのつて」等の上映、折り鶴(鳩)コーナー、うたごえライブ等、盛りだくさんの内容でした。終日多くの来場者でにぎわいました。

主催は、京都原水爆被災者懇談会。ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会(ヒバクシャ署名名京都の会)が協賛しました。



基町高校の生徒の絵に見入る来場者

京都府生協連 第30回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

2018年度 全国生協組合員意識調査報告書 ～調査結果から見えるもの～

テーマ



京都府生協連・高取淳専務理事

4月23日(火)、コープ御所南会議室で開催し、役員18人が参加しました。

日本生協連では、1994年から3年ごとに「全国生協組合員意識調査」を実施しており、この度、最新の調査報告書が出されました。調査の目的は、大きく変化する社会の中で、生協組合員の年齢・家族構成や、くらし・購買に関する意識・行動、生協の事業・活動に対する評価から、生協の政策検討や、事業方針、組合員活動の参考になる情報の提供としています。今回のKSKは、生協の使命である組合員の期待や願いに応える事業・活動に向けて、調査報告を受け、今後の課題や取組みを考えることを目的に開催しました。



日本生協連政策企画室・炭谷昇氏

日本生協連政策企画室・炭谷昇氏から「組合員の今を知り、生協の未来を考える」と題して講演がありました。調査報告によると、組合員の年齢構成では、60代以上が44・7%に増加、30代は10%未満に減少。「夫婦と子どもからなる家族」は意識調査開始以降、最低の42・6%まで減少しました。新加入の年代別の特徴では、買物が不自由な80代以上のご高齢の方の加入が増えました。就業状況では、年金生活者が25%に増加し、専業主婦は20%を切りました。日常の商品購買の方法では、インターネットショッピングが若い世代を中心に増加。商品に対する信頼は高いものの、宅配利用は面倒との声も出されています。



調査結果から見えた課題について 質疑・交流

これらの調査結果から求められる対応としては、「30代のくらしや意識に対応した事業・活動の革新」、「60代以上のくらしの変化にさらに寄り添う事業と活動」、「一般消費者の生協への認知・関心を広げる取組み」が急務であるとお話がありました。講演の後には、参加者との質疑、交流の時間をもちました。参加者からは、「これからの生協について考えさせられました。高齢者への対応だけでなく、若年層の加入についてもしっかりした対応が必要である」と思いました。「普段、あたり前にコープ商品が好きで買っています。若い人たちが生協を使わない理由とされる『仕組み』や『使い勝手』について、自分自身知らず知らず『がまん』している事に気づきました。もっと使いやすい仕組みづくりなどを積極的に進めることが必要だと感じました」などの感想が出されました。

おもな行事のお知らせ

2019年度 京都府総合防災訓練

日時：9月1日(日)10:00～12:00
会場：主会場・長岡京市村田機械株式会社総合グラウンド他
※京都府生協連はJAGグループとともに緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合「第19回役員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会・森連・JF京都・生協連)
日時：9月11日(水)13:30～12日(木)11:30(予定)
会場：メグミルク工場、京都市中央卸売市場など
テーマ：「京都の農産物の生産・流通を学ぶ」

京都環境フェスティバル 2019

主催：京都環境フェスティバル実行委員会
日時：12月7日(土)～8日(日)(予定)
会場：京都府総合見本市会館(ハルスプラザ)
※京都府生協連は会員生協の環境商品取組み紹介で出展予定。

京都消費者問題セミナー

日時：10月16日(水)10:00～12:00
会場：京都経済センター

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 TEL075(251)1501
URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp

〒604-0085 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町2008番地 コープ御所南ビル4階